



ダリア

松浦奮戦メモ

平成27年度各会計決算

議決される

市議会は9月16日から26日まで、平成27年度一般会計歳入歳出決算及び10特別会計と水道事業会計の審査が実質4日間行われ、9月27日の本会議で賛成多数で議決しました。



討論する松浦議員

松浦議員一般会計と

6特別会計に反対

日本共産党の松浦敏司議員が反対の立場から討論を行いました。

一般会計では、過去の身の丈を超える大型公共事業を推進した結果、借金返済に追われる状況が続いている。地方債残高は、前年度より減少しているが344億831万円、債務負担行為額の中で、長期にわたる債務は28億5667万円、これに取崩し可能な基

金27億1234万円を差し引くと345億5264万円になること。これに特別会計の網走港整備特別会計12億9647万円、能取漁港特別会計5億6489万円の赤字を合わせると364億1400万円となり、市民一人当たりの借金は、98万4000円になること。その結果、市民の暮らし・福祉・教育に十分な予算配分ができない財政状況にあることを指摘しました。そういう中でも、

住宅リフォーム融資、子ども医療費の入院費無料化、就学援助の生徒会費、PTA会費、クラブ活動費を追加するなど評価すべき政策です。しかし、経済的、社会的格差による生活弱者に対して、しっかりと見据えた政策にはなっており、「総体的には認定できません」。

特別会計では、市有財産整備、国民健康保険、網走港整備、能取漁港、介護保険、後期高齢者医療の6特別会計に、それぞれ理由を述べて反対しました。賛成討論は、結核の会の川原田英世議員が行いました。

8月の大雨に係る災害復旧事業が、9月27日の議会最終日に追加補正予算6億5488万円が提案されました。

路崩壊に1800万円、うち国負担は1440万円となり国の負担総額は2億3760万円です。市負担分は6090万円になります。

市単独の復旧事業では、道路河川、公園、公営住宅、農業用施設、観光施設、教育施設など総額4億1240万円を市の借金で行います。

街・スポットライト



おおにぎわいの朝市（24日）

7月2日から始まった今年のJA野菜直売所の「朝市」が9月24日で終わりました。

この日も朝6時30分から7時30分までの1時間ですが、大勢の人でごった返していました。元金市館跡地での開催は街中の人にとって大助かり、「安心・安全」な野菜を求めていました。特に今年は、台風、大雨の影響で野菜が高騰してきています。出店したお店の一番人気はホウレン草のようでした。スーパーで300円以上になってしまい、とても気軽に口にできなくなりました。

26日から始まった臨時国会では、安倍政権が『TPPの批准』を強行しようとしています。世界的異常気象が平年の様になってきている今、『安心、安全な食料を』と願う国民の声を集め、批准を阻止しなければ大変なことになるのではと考えさせられました。

流氷

▼「泊原発廃炉の会・オホーツク」の集まりに参加し、泊原発廃炉をめざして何ができるのか様々な声を聞いていて、先日出かけた「ゴジラ」展の光景を思い出した。

▼初代ゴジラが公開されたのはビキニ環礁の水爆実験で第五福竜丸が被ばくした年の暮れ。観客動員数は961万人。ゴジラは災禍の象徴といわれた。▼我が家で観に行つた「ゴジラとピオランテ」は羊のクローンがニュースになりDNAを人間が操作することの倫理が問われた時代。ピオランテは人間の操作で怪獣になった植物。親子でそれぞれ楽しんできた様子を思い出すとともに、人間のきりがない欲望を考えてしまったの思い出す。